

「いっしょに検証！公的年金」の
リニューアルについて

令和2年7月27日
厚生労働省年金局数理課

「いっしょに検証！公的年金」のリニューアルについて

1. リニューアルの目的

- 2014年5月より、ホームページに年金の仕組みや将来の見通しを解説するマンガを掲載中。
- 昨年8月に公表した2019年財政検証を踏まえて適切な情報を発信する。
- 内容を充実し若者によりより分かりやすく正確に理解してもらえるように、年金財政や財政検証について解説したコンテンツとする。

2. 「いっしょに検証！公的年金」のリニューアル案

- リニューアル案は以下のとおりであり（詳細は別紙参照）、リニューアル案を元にマンガの作成などを業者に委託する。
 - ⇒第12話（オプション試算）を作り替えて2019年財政検証ベースに更新
 - ⇒マクロ経済スライドが世代の分かち合いの仕組みであり、将来世代のためにもあることや、数字を示して少子高齢化の影響を解説するなどして、公的年金の意義や財政検証について若者により共感してもらえるように、その他の話についても半分程度を作り替える。

3. 今後のスケジュール

- 2020年度
 - 7月の広報検討会でマンガのリニューアル案について意見を聴取する。（今回）
 - そして、業者との契約後に、マンガのストーリーを決定し、ネーム(※)案を作成した後、再び広報検討会で意見を聴取する。
- 2021年度
 - マンガを完成させてHP等をリニューアルする。

※ラフな絵で漫画のコマ割りやセリフ、キャラの配置を描いたもの。

マンガのリニューアル案（別紙1）

現在

第0話 はじめに

・当該マンガでは、公的年金や財政検証についてわかりやすく解説している。

第1話 公的年金の意義

・公的年金は預貯金と違い想定外のリスク（不確実性）に対応できる。

第2話 公的年金制度の仕組み

・自分で両親や親族を養うのが私的扶養。
・高齢者や障害者への支援を社会全体で負担するのが社会的扶養。

第3話 日本の公的年金は「社会的扶養」

・ライフスタイルや家族構成の変化によって、私的扶養が次第に難しくなってきた。
・公的年金は社会的扶養の考え方をベースにしている。

第4話 日本の公的年金は「2階建て」

・国民年金は日本国内に住む20歳以上60歳未満の全ての人が加入し、厚生年金は会社などに勤務している人が加入する。
・国民年金の保険料は原則として全員が同じで定額であり、厚生年金の保険料は収入に対して定率で額は収入に応じて変わる。

第5話 賦課方式と積立方式

・保険料を、そのときの年金受給者への支払いに充てるのが賦課方式。
・保険料を、自分が将来受け取る年金として積み立てておくのが積立方式。

第6話 日本の公的年金は「賦課方式」

・賦課方式は急激な物価変動などのリスクを避ける特徴がある。
・公的年金の財政方式は、賦課方式を基本とし、積立金を活用している。

リニューアル後(案)

第0話から第6話については、
ストーリーの変更なし。
※文言の修正はあり得る。

マンガのリニューアル案（別紙2）

現在

第7話 財政検証と財政再計算

- ・以前まで行われていた財政再計算は、給付水準を維持する場合に必要な保険料を算定するもの。
- ・平成16年に、固定された財源の範囲内で給付水準を自動的に調整することで、給付と負担の均衡が図られる財政方式に変更。
- ・財政検証では、将来の収支見通し等を作成し、公的年金財政の健全性を検証している。

第8話 財政検証のための人口と経済の見通し

- ・厳しい人口推計を織り込んで財政検証を行っている。

第9話 所得代替率の見通し

- ・公的年金の給付水準は、所得代替率（給付開始時における年金額の現役世代の手取り収入に対する割合）で考える。
- ・公的年金の所得再分配機能により、現役時代の所得が高いほど所得代替率は低くなり、所得が低いほど所得代替率が高くなる。

第10話 年金積立金の見通し

- ・少子高齢化が進んで保険料収入が減っても、積立金を活用することで安定した給付ができる。
- ・年金積立金の運用はGPIFによって行われている。

リニューアル後(案)

第7話 年金積立金の役割 ※タイトル変更

- ・賦課方式を基本とした財政方式における積立金の役割を追記する。
- ・特に、積立金が財源に占める割合が約1割であり補助的なものであること、積立金は主に将来世代の給付水準の確保のため活用されることを解説する。

第8話 財政検証と財政再計算

- ・2004年改革の財政フレームの解説に加え、財政検証における財政の健全性とは、給付水準の十分性を検証していることを明確化する。

第9話 財政検証の重要な要素は？ ※タイトル変更

- ・財政検証の前提として、人口、労働力、経済が重要であることを解説する。
- ・将来は不確実なため、前提については良い場合から悪い場合まで幅広く設定しており、結果も幅広く捉える必要があることを解説する。
- ・どのケースが当たるかではなく、今後どのような方向に進むべきかを読み解くことが大切であり、そのような観点でみると、労働参加を進め経済を成長させることが重要であり、年金制度についてもより長く多様な形で働く社会に対応していくことが重要であることを解説する。

※現在の第8話の内容を分割

第10話 公的年金の給付水準 ※タイトル変更

- ・給付水準は現役世代の賃金との相対的水準を示す所得代替率と購買力を示す物価で割り戻した年金額の2つでみていることを解説する。
- ・マクロ経済スライドにより、所得代替率は低下するが、実質賃金が上昇すると年金の購買力は必ずしも低下しないことを解説する。

第11話 少子高齢化の影響 ※タイトル変更

- ・少子高齢化の見通しに加え、その影響はマクロ経済スライドで吸収することを追記する。
- ・数字を示して少子化の所得代替率への影響を解説する（扶養負担比率の変化（約4割減）に対して、労働参加率の上昇と積立金の活用により所得代替率が2割減となっていること等）。
- ・平均余命が伸びる中、長く働き受給開始を遅らせることで所得代替率の低下を補うことが可能であることも解説する。

マンガのリニューアル案（別紙3）

現在

リニューアル後(案)

第11話 世代間格差の正体

- ・世代間格差を年金だけでみるのではなく、公的年金のメリットである生涯にわたる安心に目を向けることが大切である。
- ・日本経済が大きくなれば、給付水準が大きくなる。

第12話 世代間格差の正体

- ・マクロ経済スライドが世代間の分かち合いの仕組みであり、将来世代の給付水準の確保のための仕組みであることを追記する。
- ・世代間格差を年金だけでみるべきでないことについては、若年世代に理解を得るよう説明方法を工夫する（例えば、私的扶養の他に教育、社会インフラ、相続等の違いを取り上げる。）。
- ・将来年金をもらえなくてもいいので保険料を払いたくないという若年者に対して、年金給付に税金が投入されていることや老齢給付以外に近い将来に貰い得る障害給付・遺族給付があることを伝えることで、保険料を払うことで恩恵があることを伝える。

第12話 オプション試算ってなに？

- ・年金制度が変わったら将来の姿がどうなるかを見るための試算をオプション試算という。
- ・3つのオプションのどれもが、将来の給付水準を確保する上でプラスになることを確認。

第13話 これからの年金制度 ※タイトル変更

- ・2019年財政検証のオプション試算内容を紹介し、平均寿命の延びに伴い、少しでも長く就労すれば貰える年金が増えることを解説する。